



2021年5月18日
シンガポール

第30回アジア船主協会総会 プレスリリース
Asia, Support Crew Changes to Save Our Seafarers

(船員救済のため、船員交代を支援するアジア)

〈日本船主協会事務局試訳〉

アジア船主協会(ASA)は、2021年5月18日に第30回年次総会をオンラインで開催した。会合においては、新型コロナウイルス禍のもとで引き続き困難となっている船員交代問題に議論が集中した。内藤忠頭 ASA 会長は「2020年11月に開催された第75回国連総会で採択された、船員を基幹労働者に指定する決議案 (A/75/L37) を高く評価するとともに、船員の救済に向けて最大限の取り組みを行う」と決意を示した。

船員のワクチン接種について

ASA 船員委員会の Han Chao 委員長は、「世界物流を維持するため、あらゆる逆境にさらされている陰の英雄である船員の重要性を、今こそ全世界が認識する時である」と述べた。同委員長は、2006年の海上労働条約 (MLC 2006) に基づく基本的権利を尊重し、船員が COVID-19 ワクチン接種を早い機会に受けられるように、すべての国が国連決議を実行に移すよう促した。

ASA は "No Crew Change" 条項を拒絶する

ASA 船舶保険・法務委員会の Richard Hext 委員長は、「昨年の船員交代危機のピーク時には、約40万人の船員が海上での足止めを余儀なくされた。その人数は後に幸いにも20万人前後まで減少したものの、依然受入れ難い状況にある。特に、船員への支援を時に公言している錚々たる用船者の中においても、「no crew change」条項を用船契約や航海指示書に盛り込むよう要求している事例があることは大変遺憾である。こうした条項は、船員の人権を侵害するものであり、MLC 2006 に基づく船主の責任に明らかに違反している」と表明した。

パンデミック下における世界のサプライチェーン維持を再確認

最近のサプライチェーン混雑問題に関し、ASA は関係当局、荷主業界などから示されている懸念を認識し、特に、定航部門における想定外かつ集中した需要拡大に伴うターミナル混雑や、予約可能船腹・空コンテナ不足などの荷主が直面する困難に留意した。3月のスエズ運河における座礁事案に関しては、同運河庁をはじめとした関係者の多大な尽力により通航支障は解消したものの、短期的には上述の諸問題の悪化要因となった。ASA 海運政策委員会の中島孝委員長は、「海運業界は安定した世界のサプライチェーンを下支えする不可欠な役割を担っており、ASA は関係者と協力して、今後も最大限の努力を続けるとの強い決意を再確認した」と表明した。なお、スエズの座礁事案に関しては、円滑な物流システム確保の比類なき重要性に鑑み、ASA も事態の推移を注視していくこととしている。ASA はまた、パナマ運河庁が最近、ASA/ICS (国際海運会議所) /ECSCA (欧州共同体船主協会) の共同意見書等を踏まえ、通航予約料の値上げを延期したことを評価した。

香港条約

ASA は、安全と環境に配慮したシップリサイクルを持続的に促進するには、香港条約に適合するシップリサイクル施設の早急な拡充が必要であることを再確認した。この推進力となるのは、香港条約の早期発効である。シップリサイクリング委員会の **Ron Huang** 委員長は、「香港条約の早期発効に向けた動きを加速させるには、中国とバングラデシュがこの重要な条約に加入するよう働きかけ続けること、ならびにアジアの船主に香港条約に適合するシップリサイクル施設の利用を促進していくことが不可欠である」と強調した。

IMO 主導による脱炭素化の議論を求める

航行安全・環境委員会の **Caroline Yang** 委員長は、「IMO の MEPC（海洋環境保護委員会）が引き続き海運業界における GHG 削減の議論を主導すると信じる」と述べ、「本年 6 月の MEPC76 では最も重要な議題の 1 つであり、10 か国・海運 8 団体が共同で提案した、IMRB（国際海事研究開発基金）の創設について議論が行われる」と続けた。今後、IMRB の創設により業界自身の資金拠出による 60 億ドル規模の研究開発支援国際ファンドが設立される予定。国際ファンドは、野心的な IMO 目標に合致し、パリ協定に沿った、国際海運の脱炭素化を実現させる新たな燃料・技術を特定、開発、実証するために活用される。また、ASA は、IMO 加盟国および関係者が、IMRB の議論と並行して検討可能な MBM（経済的手法）の具体的な提案を行うことにも期待している。

第 31 代 ASA 会長に前 ASA 副会長で韓国船主協会 会長の **Tae Soon Chung** 氏が、副会長に中国船主協会会長の **Xu Lirong** 氏が選任された（任期は 2022 年に韓国で開催予定次回 ASA 年次総会までの 1 年間）。

第 30 回 ASA 年次総会は、日本船主協会主催のもと開催され、全ての ASA 加盟団体が参加した。

【本プレスリリースの問合せ先】

ASA 事務局 Technical Manager Dylan Ow

電話 : +65 6325 4737

Email : information@asa.org.sg / Website : www.asianshipowners.org

【ASA について】

- ・アジア船主協会(ASA)は、豪州、中国、台湾、香港、日本、韓国の船主協会およびアセアン諸国*の船主組織によって構成されるアセアン船主協会連合(FASA)を正会員として構成される組織で、その目的は、アジア船主業界の利益促進。
 - *ブルネイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、シンガポール、タイ、ベトナム
- ・当該年次総会以降、次の年次総会までの間は、以下 5 つの常設委員会により継続的活動が行われている。
 - 船員委員会 (SC : Seafarers Committee)
 - 船舶保険・法務委員会 (SILC : Ship Insurance and Liability Committee)
 - 航行安全・環境委員会 (SNEC : Safe Navigation and Environment Committee)
 - 海運政策委員会 (SPC : Shipping Policy Committee)
 - シップリサイクリング委員会 (SRC : Ship Recycling Committee)
- ・ASA 加盟船主および運航業者は、世界商船船腹の約 50% を支配・運航していると推定される。